

# 日本音楽集団定期演奏会

一、インド旋律による「壁画」 牧野由多可作曲

二、ヤイレस्प——夢が・見せた・わが里—— 本年度委嘱・初演 岡田京子作曲

三、笛と打楽器のための音楽 初演 長沢勝俊作曲

四、はばたきの歌 秋浜悟史作詩・三木 稔作曲

客 演 指揮・荒谷俊治 テノール・金谷良三 松原混声合唱団 湘南市民コール 合唱指揮・関屋 晋

笛独奏 望月太八 構成 望月太八

都市センターホール一九七五年十二月三日〈水〉開演午後七時

# 一、インド旋律による「壁画」

"HENGA" by melodies of India

牧野由多可作曲  
Yutaka MAKINO

(笛) 鯉沼広行 (尺八) 宮田耕八朗・坂田誠山・福田輝久 (琵琶) 半田綾子・田原順子 (二十絃箏) 野坂恵子 (箏) 砂崎知子・池上早苗 (十七絃) 宮本幸子 (打楽器) 尾崎太一・堅田啓輝・藤舎成敏・河合尚市 (指揮) 荒谷俊治

(作曲年) 一九七二年 (初演) 一九七二年一月日本音楽集団第十八回定期演奏会 (委嘱) 日本音楽集団 (時間) 22分 (編成) 笛1・尺八3・琵琶2・二十絃1・箏2・十七絃1・打楽器4

私たちの日本音楽の母体となったアジア諸国の音楽。この曲は、その中でもとりわけインド音楽に強い興味を持った作者が、インド音楽の持つ絢爛さを集団の多彩な邦楽器群で表現しようという意図で書かれている。全体は四楽章からできている。

第一楽章 (ミステリオーズ — エネルジコ) 冒頭、二十絃箏と十七絃で奏でられる、エキゾチックなテーマとその自由なヴァリエーションは、押しユリでインド音楽的な色合いを出している。中間部に太鼓のトレモロが入って頂点を作り、最後に再び二十絃のテーマが現われる。

第二楽章 (アダージオ) いわゆる旋律的なメロディのはっきりしない、ラーガ風な旋律型が展開する他の楽章とは対照的に、箏のオスティナートに乗って、笛と尺八の叙唱が繰り広げられる。

第三楽章 (スケルツァンド) 極く短い軽快な章。

第四楽章 (ヴィヴァーチェ — ブリランテ) 夜を徹して行われるインド音楽でいえば、この楽章は夜も更け香のたちこめる中で佳境に入り、最高頂に達した頃に当るだろうか。笛、尺八、琵琶、打楽器が代わる代わる即興的に奏で、終曲を飾る。

シタールの華麗な余韻を思わせる箏の押しユリ、執拗に連なる音・音型を背景に変容する増二度を含んだ旋律型——これはあのインド音楽を感じさせる要素となっている。しかし、インド音楽の単なる再生に留まることではない。"インド"と邦楽器、という両者とも個性の強い民族性をもつゆえに一見異様な取り合せではあるが、この全四楽章の立体的な構成の中に

飛翔する作者の想像の翼にはためらいがない。

「十七絃独奏による主題と変容——風」(一九六五)においては、合奏の中の低音楽器に甘んじていた十七絃から独奏楽器としての魅力を引き出し、「太棹協奏曲」(一九六五)、「胡弓三章」(一九七四)などでは邦楽器の備えている特有な「顔」を塗り代え、新たな展開を作者は可能ならしめてきた。この「壁画」は作者の十数年に亘る邦楽・邦楽器を今日的に生かすという一環した創作活動のひとつの大きな結実ともいえよう。(霜島素子)

## 二、ヤイレस्प

YAIRESPU I saw the land recovered in the dream

岡田京子作曲  
Kyoko OKADA

(篠笛) 望月太八 (尺八) 宮田耕八朗・坂田誠山・三橋保源 (低音三味線) 杉浦弘和 (筑前琵琶) 山田美喜子 (箏) 坂井とし子 (二十絃箏) 吉村七重 (十七絃) 宮本幸子 (打楽器) 堅田啓輝 (指揮) 荒谷俊治

ヤイレस्पとは、アイヌ民族の持つ叙事詩「ユーカーラ」の中の一つであり、つまりヤイレस्पという主人公の名前です。その一節に、夢が・見せた・わが里、という言葉があるのです。

ここ何年か、アイヌの文化の魅力にとりつかれて、作品のテーマや題名をすべて、アイヌに寄って来ましたが、異った民族であるアイヌに、なぜ本能ともいえるような引力を感じるのか自分でもわかりません。

「夢が・見せた・わが里」は、まさにその私の気持にほかなりません。この作品は、直接的にはアイヌに結びついている訳ではありませんが、邦楽器が作り出す不思議な世界が働きかけてくるもの、必ずしも自分の欲求からおこってくるだけではない何かの声、という意味も含めてつけた副題であり、作品の中味はむしろ、かなり「和人的」なものではないかと思えます。

今まで邦楽器は、尺八と、十七絃の独奏曲を書いただけで、大きな編成の邦楽器には恐怖感に近いものをもちつづけていた私に、辛抱強く書くことをすすめて下さった日本音楽集団の皆様から感謝を捧げます。

(岡田京子)

〔笛〕望月太八 〔打楽器〕尾崎太一・藤舎成敏

しの笛と能管、それは同じ横笛でありながらその楽器の性格はまったくことなっているように思われます。しの笛が三本（基音G）から十二本（基音E<sup>♭</sup>）までの各種の音域の管をもち、それぞれのピッチにあった合奏を行なってきたのに対し、能管はただ一本であらゆる調子の音楽と合奏するという不思議な特徴をもっています。

しの笛がもつばらその繊細な音色により、抒情的なメロディーを吹き、また軽快な祭囃子の世界で活躍してきたのに対し、能管は能楽をはじめ能楽からとり入れられた長唄囃子や神楽囃子等において、そのおらかな音色や、するどい一吹により独特の世界を形成してきました。そしてこの両方の笛とも多くの場合、各種の打楽器との合奏により、その輝きを一層きわだたせてきました。

しかし笛にしろ打楽器にしろもとにさかのぼれば人類が最も古くからもってきた楽器であり、かつては祈りや祭りの中で常に人々と心をかよわせその生活の一部として生き続けてきたものにちがいありません。

曲は二つの部分より出来ており、笛（しの笛と能管）と各種の打楽器の自由な組合せにより、古代の響きを聴くと同時に、これらの楽器と現代の心をかよわせたいというねがいをもって作曲したものです。（長沢勝俊）

#### 四、はばたきの歌

Ballade for Winging

秋浜悟史作詩・三木 稔作曲

Minoru MIKI (Poem by Satoshi Akihama)

〔笛〕望月太八 〔竜笛〕鯉沼広行 〔尺八Ⅰ〕宮田耕八朗・福田輝久  
〔尺八Ⅱ〕三橋保源・藤崎重康 〔尺八Ⅲ〕坂田誠山・田嶋直士 〔ひちりき〕奈良義寛 〔細棹三絃〕杉浦弘和・太田幸子 〔琵琶〕山田美喜子  
・半田綾子・田原順子 〔箏Ⅰ・中棹三絃〕野坂恵子・飯吉圭子 〔箏Ⅱ・太棹三絃〕坂井とし子・花房はるえ 〔箏Ⅲ〕砂崎知子・吉村七重・小室圭子 〔十七絃〕池上早苗・中西仁子 〔打楽器〕尾崎太一・堅田啓輝

・藤舎成敏・河合尚市 〔テノール〕金谷良三 〔合唱〕松原混声合唱団  
・湘南市民コール 〔合唱指揮〕関屋晋  
〔指揮〕荒谷俊治

〔作曲年〕一九六八年 〔初演〕一九六八年十一月日本音楽集団第八回定期演奏会 〔時間〕22分 〔編成〕笛2 〔竜笛・篠笛と能管持ち替え〕・尺八3・琵琶・細棹三絃1・箏3 〔箏1は中棹、箏Ⅱは太棹と持ち替え〕十七絃1・打楽器2・テノール・混声合唱

プログラムの最後は、テノール独唱と混声合唱が加わり、楽器奏者も全て参加する。前半は器楽だけ、各楽器のソロがマスの的に持続する基本ビートの上に交錯する。後半の歌詞は秋浜悟史の戯曲「アンティゴネーごっこ」。「幼児たちの後の祭り」からの断片、及びこの曲のために新たに追加されたものを含む。この詩は「感覚オンリーを排し、明確な論理と抒情に支えられたプリミティブな土の根の魔力」（作曲者）を持つ。

作曲された年は、世界的に学生の闘争など緊張する事件が続いた。八月には「チェコ事件」が起こり、作曲者は怒りをおさえることができなかつたという。この曲はだから、いわば反戦の音楽である。曲の流れは怒りの導入から模索へ、そして未来への開かれた空間への「はばたき」を願っている。当時日本の伝統楽器による実験的な音楽として、曲に対する評価も両極端にわかれていた。が、今日では所謂現代邦楽の分野における作曲の支持者も拡大され、抵抗なく聴くことができるようになったのではないだろうか。また古典的手法からは遠く、洋楽、邦楽といった作曲技法上の区別もないが、表現能力を深めるための融合がみられる。即ち邦楽器のもつ特性を生かしつつ、声楽の旋律などは躍動感に満ちている。ステージでの演奏は七年ぶり、再演である。（鈴木和子）

#### 〔客演者紹介〕

荒谷俊治（指揮）

九州大法学部と文学部卒業。在学中より指揮を石丸寛、作曲を高田三郎に師事。昭和43年から49年まで東京フィルハーモニーの常任指揮者。44年文化庁在外芸術家研修員に選ばれ、故ジョージ・セルに師事。その後ヨーロッパの諸オーケストラを指揮して帰国。49年5月に名古屋フィルハーモニーの常任指揮者に就任。48年の集団の第十九回定期を指揮して以来、名

フィルと邦楽の名手たち」などで、集団及び集団のソリストたちと何度か共演している。今年、集団の団友に迎えられた。

金谷良三(テノール)

京都市出身。東京芸術大学声楽科卒業。東京混声合唱団の創立に参加して現在に至る。その間、蘭田誠一、渡辺高之助両氏に師事。NHK創作オペラの夕べ、藤原歌劇団公演などに参加し、スピントテナーという声質上、貴重な存在である。オペラのみならず、オラトリオ、ミサ、レクイエムなどの宗教曲には人一倍の熱意を持ち、高い評価を得ている。

### 日本音楽集団今後の主な予定

十二月十五日(月) 京都公演 京都文化芸術会館 開演午後七時(一般

一五〇〇円、学生一二〇〇円)

十二月十六日(火) 瀬戸内公演(文化庁助成)

十六日(火) 福山 福山市民会館ホール

十七日(水) 広島 広島青少年センター

十八日(木) 松山 松山市民会館中ホール

十九日(金) 岡山 三木記念ホール

二十一日(日) 高松 高松農協会館ホール

開演 高松のみ午後一時半、その他は午後六時半

入場料 前売二二〇〇円 当日売一五〇〇円

昭和五十一年

一月二十八日(水) コンサート・シリーズNo.31 室内楽演奏会

青山タワー・ホール 開演午後七時 (構成 杉浦弘和)

二月十日(火) 第三回新人演奏会 青山タワー・ホール 開演午後七時

二月十五日(三月二十二日) アメリカ公演(六人のメンバーによる)

四月二十七日(火) コンサート・シリーズNo.32 定期演奏会

都市センター・ホール 開演午後七時

五月十二日(水) コンサートシリーズNo.33 室内楽演奏会

青山タワー・ホール (構成 三木 稔)

六月二十三日(水) コンサート・シリーズNo.34 伝統音楽演奏会

青山タワー・ホール (構成 宮本幸子) 箏曲

松原混声合唱団・湘南市民コール

両合唱団はその活動地域こそ東京、藤沢と離れてはいるが、ともに関谷晋氏(早大卒・全日本合唱連盟理事)を常任指揮者とするアマチュアの混声合唱団であり、互いに姉妹団体でもある。毎年「全日本合唱コンクール」に出場し常に上位の成績を残し、今やアマチュアの合唱界を代表し、かつリーダー的存在となっている。演奏レパートリーもバロック、古典から現代と幅広く、最近では合唱によるロック・オペラ等も手掛けてきた。今夜は、これも関屋氏を常任指揮者とし、今年の東京合唱コンクール・大学の部において銀賞を得た大東文化大学混声合唱団の有志も参加している。

七月二十日(火) コンサート・シリーズNo.35 楽しい邦楽演奏会

都市センター・ホール (構成 長沢勝俊)

九月(十月初旬) 第二回ヨーロッパ公演

### 友の会へのお誘い

日本音楽集団では、演奏会など催しのお知らせや、半期四回のコンサートを割引値で予約できるなどの特典をもつ、友の会会員制度を設けております。一九七六年度前期(内容については「今後の予定」参照)の予約を受けておりますので、左記の要領でお申し込み下さい。

#### A会員

● コンサート・シリーズ半期(四公演)の、座席確保

● コンサート・シリーズ及びそれ以外の特別演奏会、団員のリサイタル、その他の企画のご案内

● 集団のレコード、楽譜出版のご案内

● 機関紙(来年より年二回発行予定)の無料配布

#### B会員

● コンサート・シリーズ及びそれ以外の特別演奏会、団員のリサイタル、その他の企画のご案内

● 集団のレコード、楽譜出版のご案内

● 機関紙(来年より年二回発行予定)の無料配布

#### 会費

● A会員 半期(四公演)五〇〇〇円 (学生四〇〇〇円)

●B 会員 五〇〇円 (半期)

来期新規入会受付中

●今期シリーズ中にA 会員を申し込まれた方には、今期の催しのお知らせもいたします。

申し込み方法

●本演奏会会場受付にお申し込み下さい。それ以外のばあいには、住所、郵便番号、氏名、電話、お勤め先を書いたものを同封の上、所定の金額を集团事務所に現金書留でお送り下さい。

日本音楽集団第一回作曲公募 締切迫る!!

日本音楽集団では、伝統楽器に関心のある全ての作曲者に創作の機会を開放し、毎春の定期公演で上演するための新作を左記の要領で公募することにいたしました。当集団の演奏する範囲は、独奏から大きな合奏に至るまで多岐にわたっていますが、この作品公募では日本音楽集団が合奏するときの一番スタンダードな左記の編成に近いものを望みます。

審査は総譜を提出して頂き、譜面審査によって、最終的に入選作一曲と佳作二曲程度を選びます。なお過去に日本音楽集団で演奏させて頂いた作品の作曲者の方々に審査に加わって頂きます。

日本音楽集団連名

△団員▽

- 望月 太八 (能管・篠笛・竜笛)
- 鯉沼 広行 (能管・篠笛)
- 宮田耕八朗 (尺八・竜笛・篠笛)
- 坂田 誠山 (尺八)
- 三橋 保源 (尺八)
- 福田 輝久 (尺八)
- 杉浦 弘和 (三絃)
- 野口美恵子 (三絃)
- 山田美喜子 (筑前琵琶)
- 半田 綾子 (薩摩琵琶)
- 田原 順子 (筑前琵琶)
- 坂井とし子 (箏・三絃)
- 白根きぬ子 (箏) 在米中
- 野坂 恵子 (箏・二十絃箏)
- 砂崎 知子 (箏・三絃)
- 吉村 七重 (箏・二十絃箏)
- 池上 早苗 (箏・二十絃箏・十七絃)
- 花房はるえ (箏)
- 宮本 幸子 (十七絃)
- 尾崎 太一 (打楽器)
- 堅田 啓輝 (打楽器)
- 高橋 明邦 (打楽器)
- 藤舎 成敏 (打楽器)
- 田村 拓男 (指揮・打楽器)

記

●楽器編成 横笛(篠笛・能管のいずれか持替も可) 1、尺八2、三絃(細掉・中掉・太掉のいずれか) 1、琵琶(筑前又は薩摩) 1、箏(十三絃又は二十絃) 2、十七絃1、打楽器各種(演奏者数2)

●楽曲の形式 自由

●演奏時間 十五分前後

●募集締切 一九七五年十二月十五日(日本音楽集団事務所に提出)

●入選発表 一九七六年一月中旬

●入選作の初演 入選作は日本音楽集団の委嘱作品として、一九七六年四月〜六月に行われる日本音楽集団の春の定期演奏会で初演します。また佳作についてもできる限り上演機会を得られるよう努力します。

●賞金 入選作 二十万円、佳作 各五万円

●入選作の権利 日本音楽集団が初演権を持つ以外、全ての権利は作曲者に帰属します。

●審査 審査には次の方々と、日本音楽集団であります。

☆清瀬保二 伊福部昭 ☆柴田南雄 ☆広瀬量平 安達元彦

(☆印は今回の審査員)

長沢 勝俊(代表・作曲・文芸)

三木 稔(音楽監督・作曲・文芸)

霜島 素子(文芸)

畦地 慶司(胡弓ほか)

稲田 康(指揮)

河合 尚市(指揮)

△研究団員▽

田嶋 直士(尺八)

藤崎 重康(尺八)

太田 幸子(三絃)

小室 圭子(箏)

中西 仁子(箏・十七絃)

飯吉 圭子(箏・三絃)

倉持 和枝(箏)

楠 知子(作曲・文芸)

鈴木 和子(文芸)

並木 鈴好(文芸)

△事務局▽

清水 義矩・牧山伊津枝

奈良 義寛・本図 光子

# 日本音楽集団のレコード

現在発売中のもの

レコード・タイトル	収録曲名	作曲者	演奏者	レコード会社名	レコード番号	発売年	定価
日本の楽器	日本の各楽器の代表的古典曲・現代曲の一部又は全部を収録	監修：長沢：三木 解説：長広比登志 霜島素子	日本音楽集団 他 ナレーション： 立川澄登	RCAビクター	JRZ・2520～1	1972	4,400 (yen)
人形風土記/ 子供のための組曲	組曲「人形風土記」 子供のための組曲	長沢勝俊	日本音楽集団 指揮：田村：横山	RCAビクター	JRZ・2523	1972	2,200
日本の楽器入門	第一面・箏のなかま 第二面・尺八 第三面・三味線 第四面・太鼓	監修・解説： 三木 稔 台詞：秋浜悟史 話し：伊藤惣一	作・構成・演奏： 野坂・宮田・杉浦 清水・川崎祥悦 日本音楽集団	日本コロムビア	ELS・3342～3	1972	3,000
古典→現代 日本音楽集団の世界	第一面・古典8曲 第二面凸	三木 稔	日本音楽集団 指揮：田村拓男	日本コロムビア	OS・10127	1972	2,000
箏の演奏法 (初級編)		編纂：茅原芳男	野坂恵子 他	日本ビクター	SJL・2115	1973	2,000
尺八の演奏法		編纂：宮田耕八郎	宮田耕八郎	日本ビクター	SJL・62	1973	2,200
箏と尺八		編曲：長沢勝俊	宮田 宮本, 野坂	日本ビクター	SJL・77	1974	2,200
野坂恵子古典箏曲集 第一集	千鳥の曲, 八段 砧・四季の眺	古 典	野坂恵子 客演：米川文勝之	日本コロムビア	CLS・5168	1974	2,000
野坂恵子古典箏曲集 第二集	八重衣 五段砧, 四季の曲	古 典	野坂恵子 客演：藤井久仁江他	日本コロムビア	CLS・5169	1974	2,000
野坂恵子古典箏曲集 第三集	六段の調べ 春の曲・梓	古 典	野坂恵子 客演：野坂操寿他	日本コロムビア	CLS・5199	1975	2,000
野坂恵子古典箏曲集 第四集	越後獅子・みだれ 尾上の松	古 典	野坂恵子 客演：青木鈴慕	日本コロムビア	CLS・5211	1975	2,000
邦楽器のための シャコンヌ	シャコンヌ 鶴の巣籠り 春の曲, 春の宴	安達元彦 尺八本曲 古典, 鶴田錦史	日本音楽集団 指揮：田村拓男 独奏：宮田, 半田他	オーディオ ユニオン	Au-5001-R	1974	3,000
三木稔作品集 I	古代舞曲による パラフレーズ 凸	三木 稔	日本音楽集団 指揮：秋山和慶 田村拓男	日本コロムビア	GZ-7003	1975	2,000
三木稔作品集 II	ソネット・箏譚詩集 四群のための形象	三木 稔	日本音楽集団 独奏：野坂恵子	日本コロムビア	GZ-7004	1975	2,000
三木稔作品集 III	序の曲・雅びのうた 天如・孤響	三木 稔	東京ソリスト 指揮：秋山和慶 独奏：横山, 宮田 野坂, 坂井, 宮本	日本コロムビア	GZ-7005	1975	2,000
萌春/長沢勝俊作品集	二つの舞曲 箏二重奏曲 詩曲・萌春	長沢勝俊	日本音楽集団 指揮：田村拓男 独奏：宮田 他	RCAビクター	JRZ・2558	1975	2,200

※レコード店で上記レコードが入手困難なとき、日本音楽集団事務所に、お問い合わせ下さい。

過去に出たレコード (これらのレコードは集団事務所にお問い合わせ下さい)

レコード・タイトル	収録曲名 (作曲者)	レコード会社名	発売年
現代日本の音楽 <3>	古代舞曲によるパラフレーズ (三木 稔) 他	日本コロムビア	1969
日本音楽集団による三木稔の音楽	序の曲・天如・はばたきの歌・くるだんど等10曲 <1970年芸術祭大賞受賞>	日本コロムビア	1970
響/和楽器による現代日本の音楽	組曲「人形風土記」(長沢勝俊) しらがみ第2 (八村義夫) 他	RCAビクター	1971～3
日本美の響/日本旋律集 1～3集	日本民謡・わらべ唄・童謡等(編曲：長沢勝俊他)	日本コロムビア	1971
日本音楽集団による日本の民謡	小譜馬子唄 他 14曲 (編曲：小川寛典)	キング	1971
佐保の曲・竜田の曲/野坂恵子リサイタル	佐保の曲・竜田の曲 (三木 稔)・六段の調べ・みだれ 他	日本ビクター	1972
阿波の子タヌキ譚	阿波の子タヌキ譚 (三木 稔)・子供の四季 (長沢勝俊) 他	日本コロムビア	1973

日本音楽集団推薦

琴・三絃専門

## 琴光堂和楽器店

中 島 隆

〒156 東京都 世田谷区 赤堤 2-25-7

電話 東京03 (328) 2 8 0 2

横浜045(363) 5 4 4 8

後記——企画者より

本日も沢山のご来場ありがとうございました。今夜のプログラムはいかがでしたか？

私見で恐縮ですが、集団の本来の道（特に定期演奏会で）は合奏だと思っています。皆さまに楽しんで頂けて、なお最近の演奏会上演しないプロを組んでみました。今夜をもちまして定演ではプロデューサー制を一応やめて委員会が企画を行うことになり、その殿を受け承りましたが、ちよっぴり責任を感じておりました。

凡そ合奏というものは大変難しく自分一人が調子よくても、他の人がミスを出して沈滞してしまったり、自分では自信満々で舞台上ったのに、つまらぬ所でうっかりしてミスをしたりして失敗することがありますので、

全員が最高の調子でパーフェクトに演奏するのはなかなか大変です。

幸いにして我集団は名（迷）人の集まりでしてプロ根性を持った人が多くいますので、なにげなく、なにげなく終ってしまうことが多いようです。しかし、反省することも多く、譜面が難しいこともあったりして、舞台上ったときの顔に余裕がないのもそのうちのひとつだと思えます。内輪話しは此の辺で。

なお、ソロや二重奏が少なくてご不満の方、来年は箏曲室内楽のオンパレードです。又、新しいコンサートシリーズには、室内楽演奏会、定期演奏会の他に、楽しい邦楽演奏会、伝統音楽演奏会もあります。乞！御期待。

（望月太八）

日本音楽集団事務局

〒一五〇 東京都渋谷区神宮前六一十六ー十四 小早川ビル二F

TEL〇三ー四〇九ー五三七四

